景観と風景を活かし、育てるまちへ

住民懇談会　森岡地区
平成30年12月15日（土）14：00～

1

皆様、こんにちは。

それでは、景観と風景を活かし、育てるまちへということで、景観について概略をお話しさせて頂きます。

個性ある都市を育てるために

現代都市は、巨大な建設投資と技術を動員して、効率性、快適性をめざして開発整備されてきた。そのために、生み出された都市空間は個性のないものになりがちである。

どうして、効率的で画一的な「ファスト風土」ではいけないのでしょうか。

それは、都市や地域は、利便性や効率性だけでは評価できない固有の価値を持っているから。

住民、市民は自分たちが住む都市の独自の価値、共感できる風景を求めている。

土地や住宅に余裕ができてきた時代、住むところ・住み方を選ぶことが出来る時代に、選ばれる地域であるためにも、地域の個性や魅力が重要となってくる。

2

現代都市は、巨大な建設投資と技術で効率性・快適性を目指し開発・整備されてきました。
しかし、その都市空間は、個性のない、効率的で画一的な「ファスト風土」となってしまっています。
都市や地域は、利便性や効率性だけで評価できない固有の価値を持っています。
今後土地や住宅に余裕ができ、住むところや住み方を選ぶことができる時代になり、選ばれるためにも地域の個性や魅力が重要となってきます。
その価値を磨く方法として、景観まちづくりがあります。
では、景観まちづくりとはどのようなことでしょうか。
次のスライドをご覧ください。

景観まちづくりとは

良い景観や風景を創造したり、維持したり、守り、活用し、育てることをテーマとしたまちづくり。

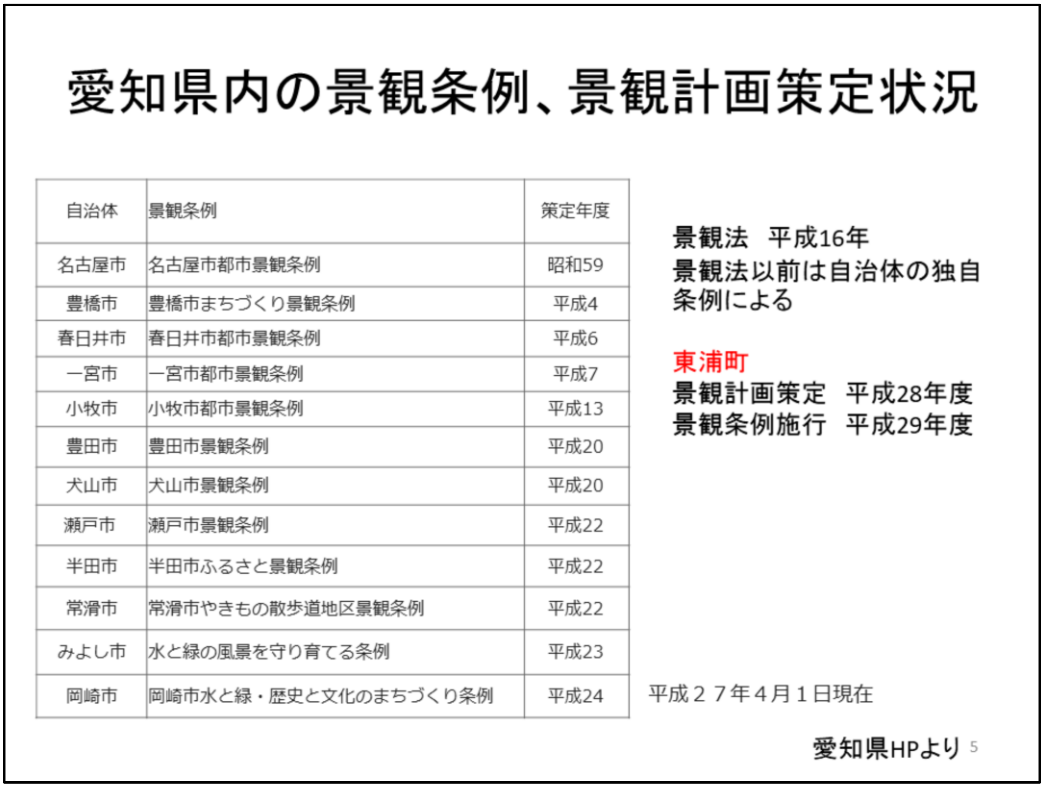
直接的なねらい：
① 住民、コミュニティ意識向上
② アメニティ（生活環境、魅力）改善
③ 経済的効果

3

景観まちづくりとは、
景観や風景を創り守り育てることをテーマとしたまちづくりです。
景観により、住民の方やコミュニティの方々の景観への意識の向上や生活環境や魅力UPすること。
地元を活気づかせ、観光や地価の向上による経済効果が見込まれます。
景観まちづくり等、景観施策を行う法的根拠として、景観法があります。

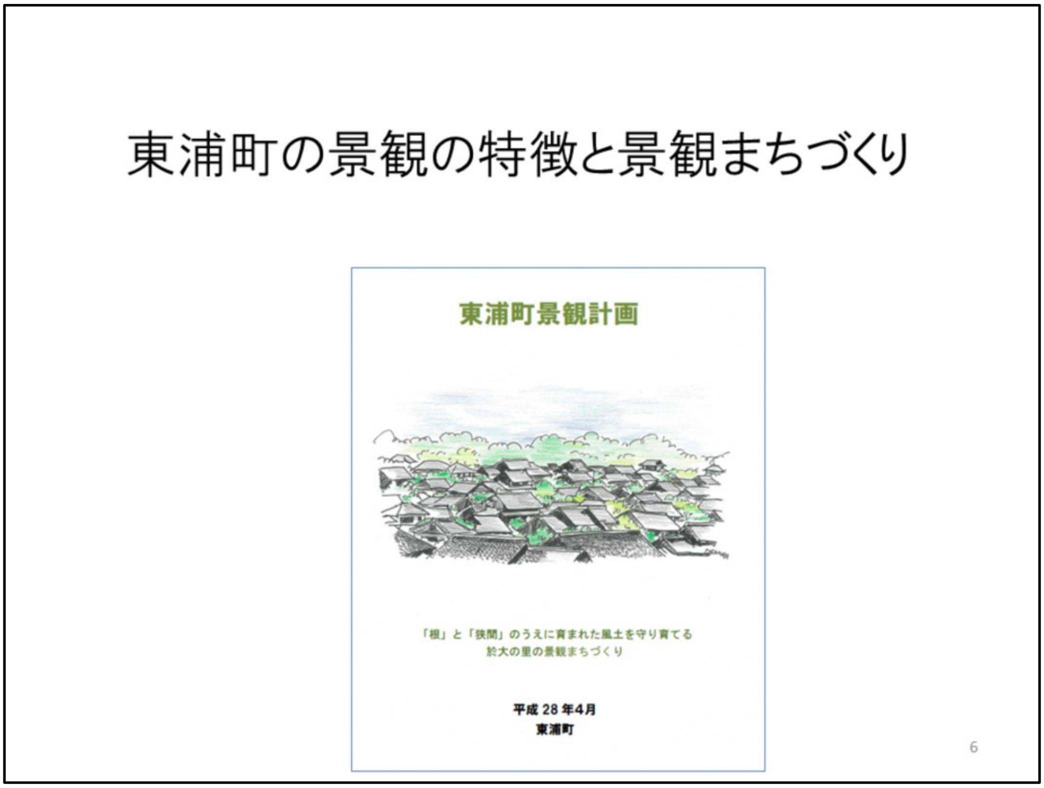
景観法平成16年の仕組み

景観法が施行されるまでは、景観を阻害するような高さ及び色等の建築物が建てられ訴訟になるケースがありました。
しかし、裁判で『景観利益』というものが法的に認められるものになりました。
その後、平成16年に景観法が施行され、法規に基づくルールが作られ、景観まちづくりが行われています。



自治体	景観条例	策定年度
名古屋市	名古屋市都市景観条例	昭和59
豊橋市	豊橋市まちづくり景観条例	平成4
春日井市	春日井市都市景観条例	平成6
一宮市	一宮市都市景観条例	平成7
小牧市	小牧市都市景観条例	平成13
豊田市	豊田市景観条例	平成20
犬山市	犬山市景観条例	平成20
瀬戸市	瀬戸市景観条例	平成22
半田市	半田市ふるさと景観条例	平成22
常滑市	常滑市やきもの散歩道地区景観条例	平成22
みよし市	水と緑の風景を守り育てる条例	平成23
岡崎市	岡崎市水と緑・歴史と文化のまちづくり条例	平成24

景観法に基づく景観条例を制定しているのは、この表ですと、
名古屋市、豊田市、犬山市、瀬戸市、半田市、常滑市、みよし市、岡崎市で、
そこにプラスして東浦町があります、現在では、愛知県内で9市町が策定してきます。
ちなみに町村で景観計画が策定されているのは東浦町だけです。



では、東浦町景観計画とはどのようなものでしょうか。次のスライドをご覧ください
この景観計画には、景観の特徴と景観まちづくりについて書かれています。
東浦町景観計画に定めている景観まちづくりと景観についての定義をご紹介させて頂きます。

景観まちづくりとは「東浦町景観計画」による

「この場所の風景がいいな、という共感を広げ、人々が生き生きと暮らせる居場所をつくり育てるのが、景観まちづくりである」

7

東浦町景観計画に定められている景観まちづくりの定義としては、
「この場所の風景がいいな、という共感を広げ、人々が生き生きと暮らせる居場所をつくり育てるのが、景観まちづくりである」としています。

景観、風景、風土
「東浦町景観計画」より

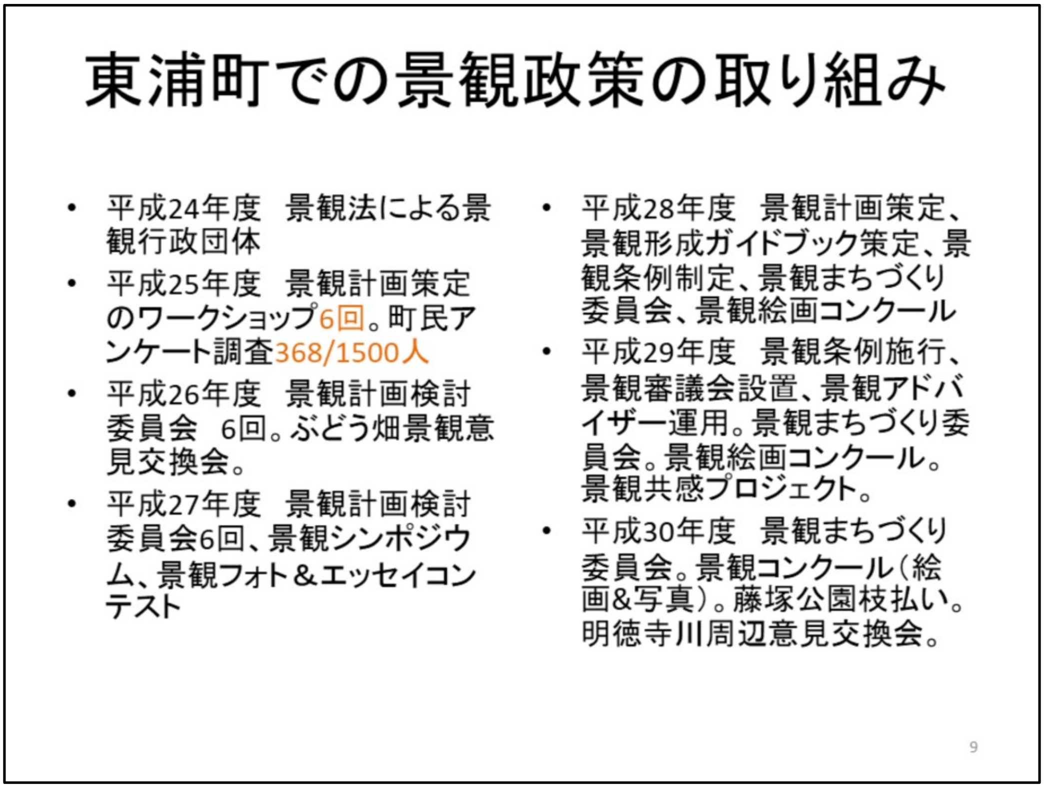
「景観」が人々の暮らしぶりとなって定着すると、「風景」となり、さらに歴史や文化といえる程度に根付くと、「風土」となる。

8

次に、東浦町景観計画に定められている「景観」とは、『「景観」が人々の暮らしぶりとなって定着すると、「風景」となり、さらに歴史や文化といえる程度に根付くと、「風土」となる。』

としており、まとめると、その土地の自然と人々の生活の積み重ねの有様を示したものが一般的な景観ということです。

ここで東浦町が今まで行ってきた景観政策をご紹介します。



平成24年度　景観法による景観行政団体となりました。

平成25年度　景観計画策定のワークショップ6回開催。町民アンケート調査368/1500人回答を頂きました。

平成26年度　景観計画検討委員会　6回開催。ぶどう畑景観意見交換会を開催しました。

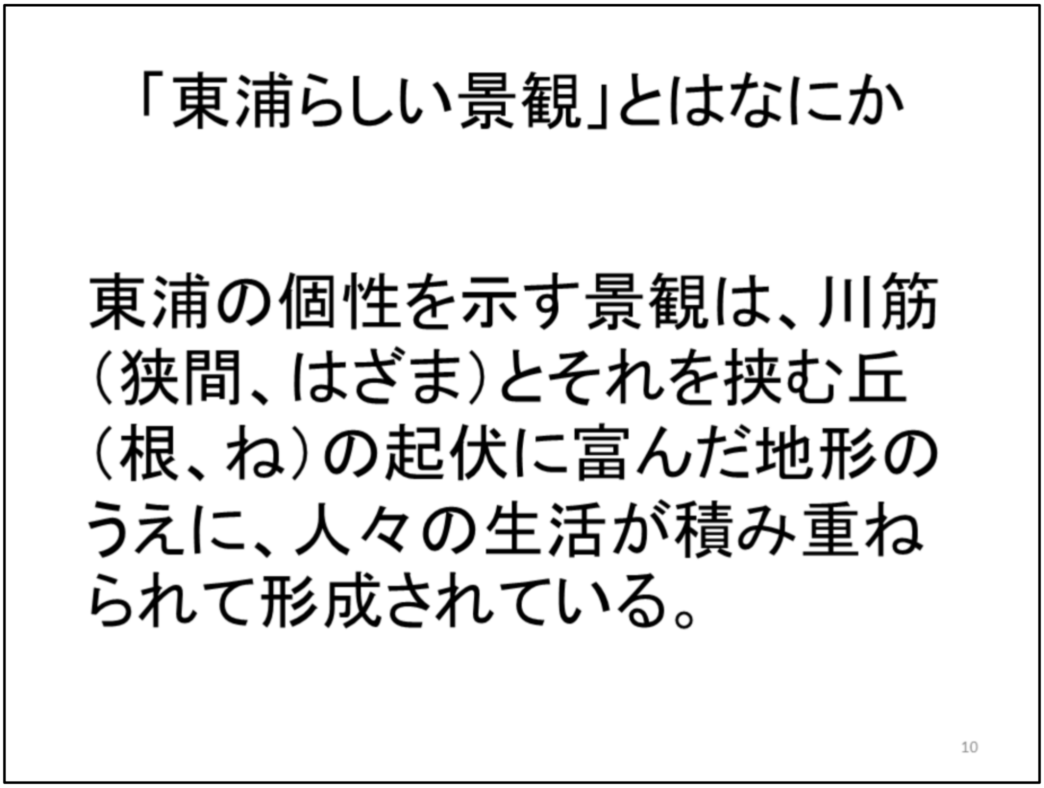
平成27年度　景観計画検討委員会6回開催、景観シンポジウム、景観フォト＆エッセイコンテストを開催しました。

平成28年度　景観計画策定、景観形成ガイドブック策定、景観条例制定、景観まちづくり委員会、景観絵画コンクールを開催しました。

平成29年度　景観条例施行、景観審議会設置、景観アドバイザー運用、景観まちづくり委員会、景観絵画コンクール、景観共感プロジェクト、景観シンポジウムを開催しました。

平成30年度　景観まちづくり委員会。景観コンクール（絵画&写真）。石浜藤塚公園枝払い。明徳寺川周辺意見交換会。等を開催しました。

このような景観政策を行う中で大事にしているのが「東浦らしい景観」です。



次のスライドにありますが、東浦の個性を示す景観は、川筋（狭間、はざま）とそれを挟む丘（根、ね）の起伏に富んだ地形のうえに、人々の生活が積み重ねられて形成されている、という点で、地形が特徴的だということです。
数枚あとのスライドで地形の特徴を紹介させて頂きます。

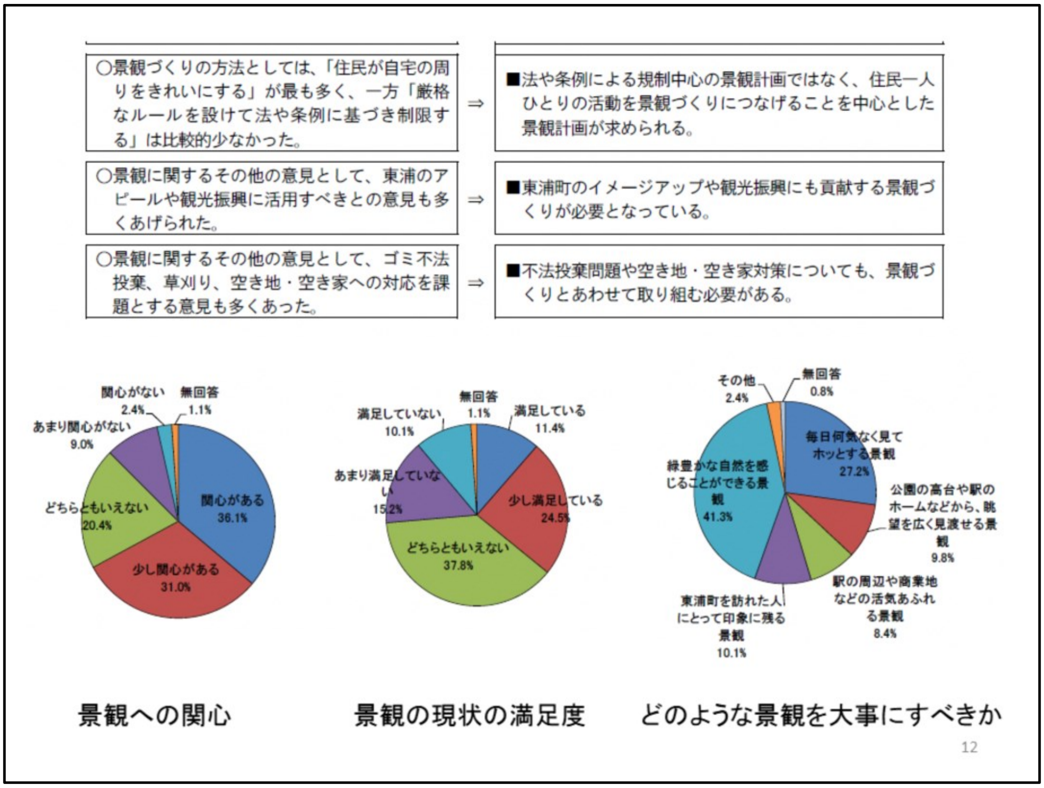
町民アンケート調査結果から
平成25年8-9月

≪アンケートの結果の概要と計画の反映に向けた考察≫

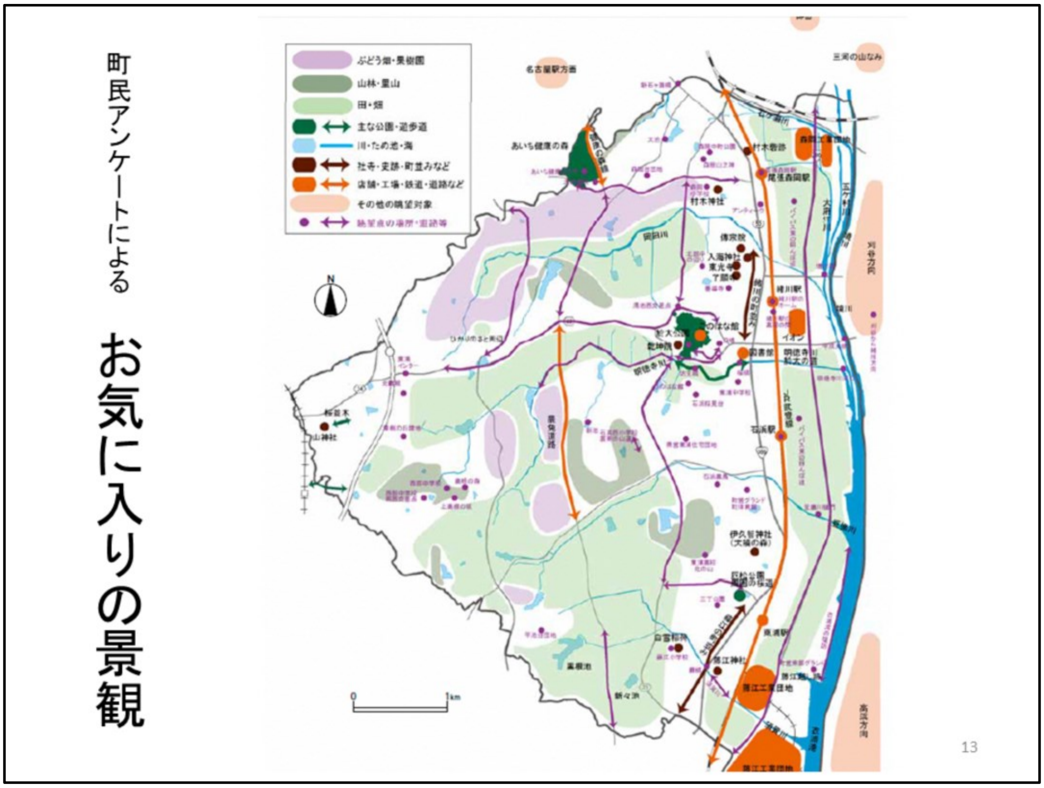
結果の概要・ポイント		考察
○景観へ関心をもつ住民は多くなっているが、30～40 歳代、男性の関心はやや低くなっている。	⇒	■30～40 歳代、男性を中心に、景観への関心をさらに高める取組を検討する必要がある。
○景観への満足度はあまり高いとはいえず、「どちらともいえない」の回答が最も多くなっている。	⇒	■住民に景観のイメージが理解されていないことが要因と想定されることから、景観づくりを理解し、東浦町の景観像の共通認識を醸成する取組を検討する必要がある。
○10 年前に比べ景観がよくなったとする意見も多くなっている。	⇒	■古くからの資源の保全だけではなく、まちづくりにおける新しい景観づくりも必要となっている。
○重要な景観資源としては、「田園」「山林や里山」「大きな公園」「歴史的資源」が多くなっている。	⇒	■里山や田園風景などの自然資源、社寺や町並みなどの歴史資源の保全・活用を景観づくりの中心に位置づける必要がある。
○お気に入りの風景としては、田畑、田園風景、里山の他に、ぶどう畑や果樹園をあげる意見が多くなっている。	⇒	■ぶどう畑は東浦町の特徴的な景観として、保全・活用していく必要がある。
○丘陵地の高台や斜面の上からぶどう畑や旧道沿いの町並みや対岸の刈谷方向などの眺望をお気に入りの風景としてあげる意見も多くなっている。	⇒	■眺望が楽しめる場所（視点場）を整えることも必要である。
○大切にすべき景観として「緑豊かな自然を感じる景観」の他に「毎日見てホッとする景観」も多くなっている。	⇒	■名所的景観だけではなく、各地区の住宅地の周りの身近な生活景観の保全や創造も必要となっている。

11

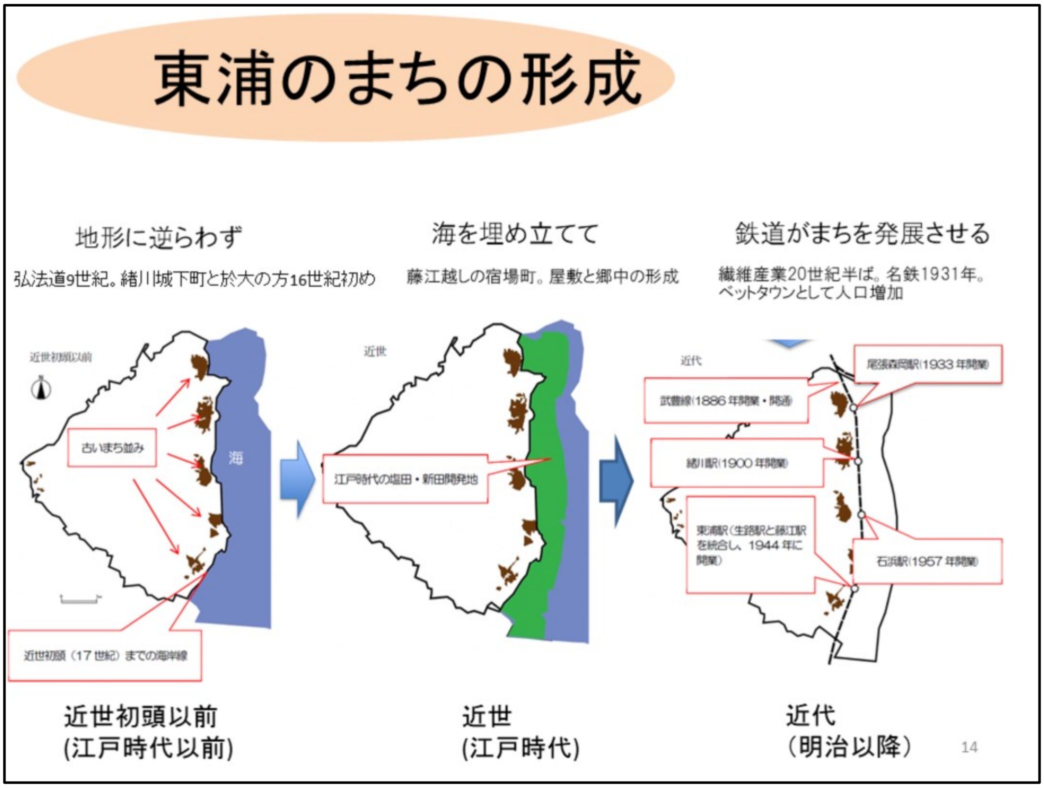
次に、先ほどのスライドでありました平成25年に行ったアンケート調査から、いくつかピックアップすると、重要な景観資源としては、「田園」「山林や里山」「大きな公園」「歴史的資源」が多くなっています。
お気に入りの風景としては、田畑、田園風景、里山の他に、ぶどう畑や果樹園をあげる意見が多くなっています。
大切にすべき景観として「緑豊かな自然を感じる景観」の他に「毎日見てホッとする景観」も多くなっています。
東浦と言えば、ぶどう畑や田園風景等の自然豊かな風景が特徴だという意見が多く、東浦町の半分程度が農地であるので保全活用していくことが大事です。



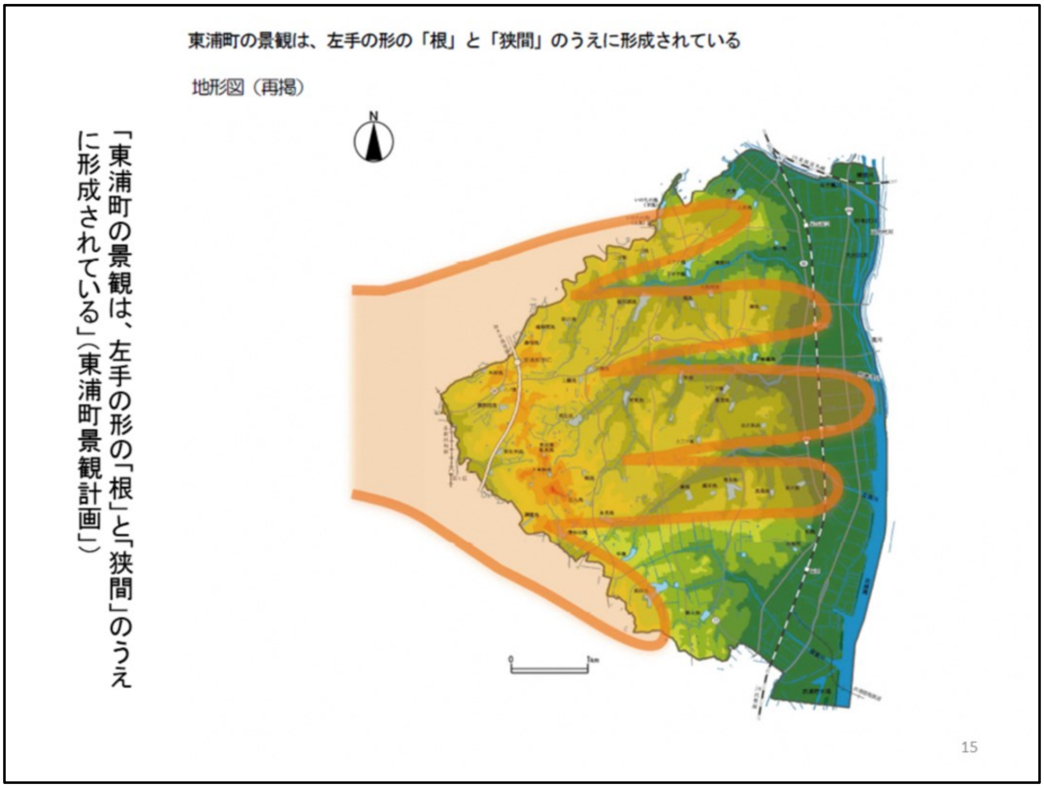
また、これらがホッとする風景であり、さらに住んでいる人からは普通の風景でホッとする風景でも、他の所から来た人にとっては、珍しい景観であることもあります。
周りから特徴的なものまで保全、活用をしていき東浦らしくしていきたいと考えています。
また、法や条例による規制中心の景観計画ではなく、住民一人ひとりの活動を景観づくりにつなげることを中心とした景観計画が求めらていることも考察であるように、皆さまからの意見を聞きながら作っていくのが景観であると思いますので、のちほど自分が思う景観について意見を頂ければ幸いです。



次のスライドは、平成25年に実施したワークショップにおいて作成した、お気に入りの景観を地図に落としたものです。
意見を頂いた部分を記しています、森岡地区ですと、ぶどう園や村木神社、健康の森等が示されています。
次は、東浦のまちの形成ということで海を埋め立ててその沿線を鉄道がとおったという経緯が載っています。
これに伴い浜手の景観が変わってきたと考えられます。



次は、東浦のまちの形成ということで海を埋め立ててその沿線を鉄道がとおったという経緯が載っています。
これに伴い浜手の景観が変わってきたと考えられます。



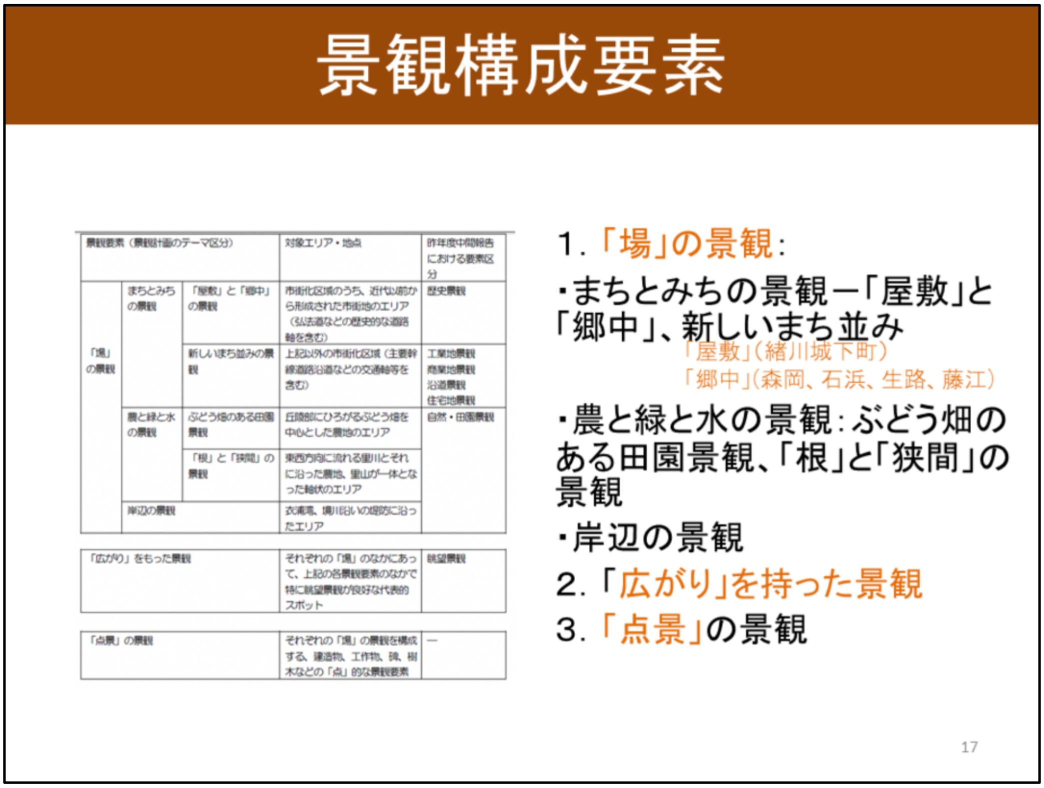
次のスライドは、先ほどお話しした、東浦の個性を示す景観で、川筋（狭間、はざま）とそれを挟む丘（根、ね）の起伏に富んだ地形を表したものです。
大きい川が4本流れていてその横が丘となっています。
この形状が人の左手をかざした形のようなので皆さんぜひ覚えておいてください。

景観のタイプと要素

タイプ	自然性	歴史性・文化性	都市性・近代性	場所、地域
①文化的歴史的町並み景観	△	◎		中世以来、歴史的に形成された街並み
②近代的市街地景観	△	△	◎	近代ビル群、公共空間、整備された河川、公園、住宅団地・ニュータウン、沿道商業施設、ショッピングセンター、工業団地
③農村・田園の自然文化景観	○	○		村・集落、農家、里山、農地、小川・田んぼ、池
④自然景観	◎			山岳、森林、海岸、砂漠、渓谷、自然河川、沼

16

次に景観のタイプと要素を示したものです。
東浦町ですと、①の文化的歴史的町並み景観、③の農村・田園の自然文化景観、④の自然景観があると思います。
これらの要素を細かくしたものが、東浦町景観計画に示してあります。それが次のスライドです。



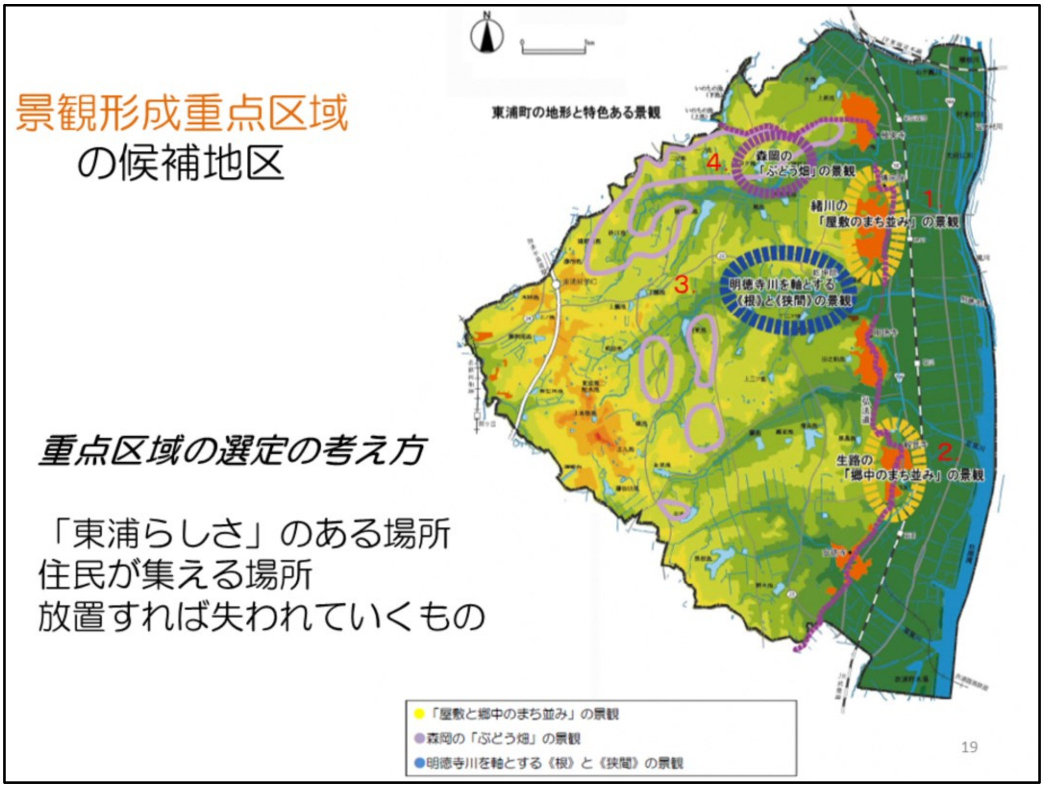
景観要素（景観計画のテーマ区分）			対象エリア・地点	昨年度中間報告における要素区分
「場」の景観	まちとみちの景観	「屋敷」と「郷中」の景観	市街化区域のうち、近代以前から形成された市街地のエリア（弘法道などの歴史的な道路軸を含む）	歴史景観
		新しいまち並みの景観	上記以外の市街化区域（主要幹線道路沿道などの交通軸等を含む）	工業地景観 商業地景観 沿道景観 住宅地景観
	農と緑と水の景観	ぶどう畑のある田園景観	丘陵部にひろがるぶどう畑を中心とした農地のエリア	自然・田園景観
		「根」と「狭間」の景観	東西方向に流れる里川とそれに沿った農地、里山が一体となった軸状のエリア	
	岸辺の景観		衣浦港、境川沿いの堤防に沿ったエリア	
「広がり」をもった景観			それぞれの「場」のなかにあって、上記の各景観要素のなかで特に眺望景観が良好な代表的スポット	眺望景観
「点景」の景観			それぞれの「場」の景観を構成する、建造物、工作物、碑、樹木などの「点」的な景観要素	ー

1.「場」の景観：
・まちとみちの景観ー「屋敷」と「郷中」、新しいまち並み
・農と緑と水の景観：ぶどう畑のある田園景観、「根」と「狭間」の景観
・岸辺の景観
2.「広がり」を持った景観
3.「点景」の景観
とあり、場の景観が東浦の特徴であると言えます。
それらの中から景観形成重点区域候補地区を挙げています。
そちらについては、次のスライドから説明します。

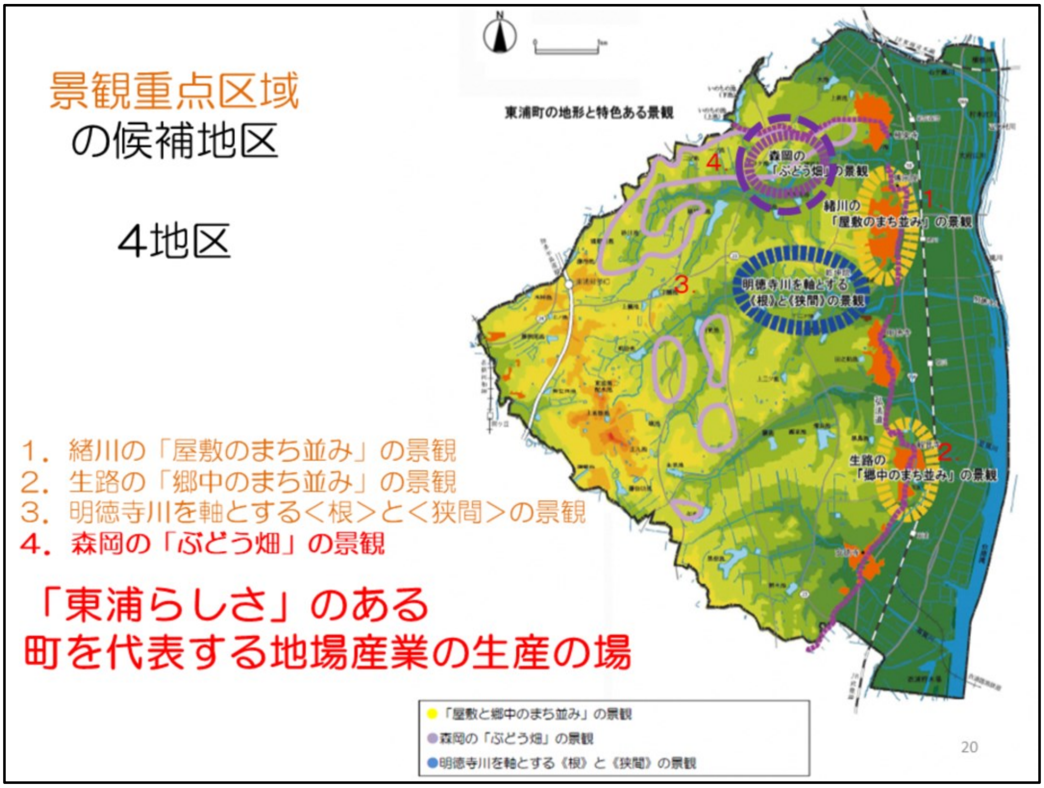
森岡地区のイイ景観

18

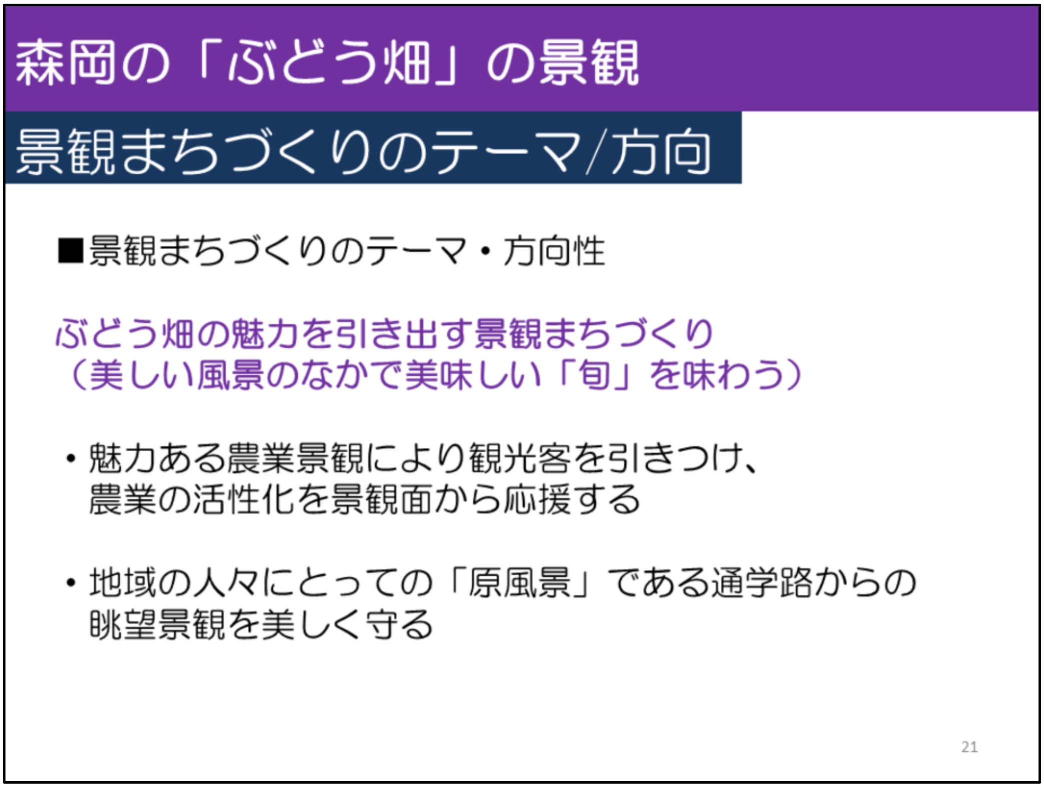
森岡地区のイイ景観ということで、景観形成重点区域の候補地区の中に「「ぶどう畑」の景観」があります。



まず、重点区域の選定の考え方として、「東浦らしさ」のある場所・住民が集える場所・放置すれば失われていくものを重点区域にすべきと考えております。



候補地区としては、4つ上げています。
1．緒川の「屋敷のまち並み」の景観
2．生路の「郷中のまち並み」の景観
3．明徳寺川を軸とする<根>と<狭間>の景観
そして4で森岡の「ぶどう畑」の景観があります。森岡の「ぶどう畑」の景観は、「東浦らしさ」のある町を代表する地場産業の生産の場という点で候補地区となっています。



景観まちづくりのテーマ・方向性ということで、「ぶどう畑の魅力を引き出す景観まちづくり」（美しい風景のなかで美味しい「旬」を味わう）をテーマとし、次に示すものが方向性です。

・魅力ある農業景観により観光客を引きつけ、農業の活性化を景観面から応援する

・地域の人々にとっての「原風景」である通学路からの眺望景観を美しく守る

森岡の「ぶどう畑」の景観

施策の案

■施策の案
【屋外広告物について】
・ぶどう街道をはじめとする屋外広告物の規制

【建築物、倉庫、門扉などの工作物について】
・集落地における新しい建築物、工作物のデザインルールづくり（高さ、色彩、屋根形状、素材など）

・作業小屋、販売所、柵など工作物の質感の向上

【道路・河川について】
・北部中学校の通学路や岡田川を中心とした「ぶどう畑を見上げる／見下ろす」視点場の環境整備

22

施策の案としては、
あくまでも案の段階ですが、
【建築物、倉庫、門扉などの工作物について】
・集落地における新しい建築物、工作物のデザインルールづくり（高さ、色彩、屋根形状、素材など）
・作業小屋、販売所、柵など工作物の質感の向上

【道路・河川について】
・北部中学校の通学路や岡田川を中心とした「ぶどう畑を見上げる／見下ろす」視点場の環境整備
等を景観計画に示しています。
このようなことを検討しながら、今後景観形成重点区域に指定していきたいと考えています。
次に森岡の現況を見ていただきます。

森岡の「ぶどう畑」の景観

森岡の現況

23

森岡の現況ですが、丘陵地にぶどう畑及び田が広がっています。
時期が今の時期なので稲穂もないですが、何気なくいつも見ているホッとする景観ではないでしょうか？
次の写真をご覧ください。

森岡の「ぶどう畑」の景観

森岡の現況

24

施策の案でもあったぶどうの柵についてですが、
この青のネットと…

森岡の「ぶどう畑」の景観

森岡の現況

25

次の写真の黒っぽいネット皆さんどちらがいいなーと思いますか？
青がいいなと思う方挙手をお願いできますか？
黒がいいなと思う方挙手をお願いできますか？
景観は、人それぞれの感覚で違います。
パッと見ると青のネットだとネットが目に入ってくるかと思います。
黒のネットだとネットが目に入りにくいと思います。
ネットひとつで変わってくるのが景観です。
みなさまも周りの景観について少し考えていただけると幸いです。
つたない説明で申し訳ありませんでした。
これで景観についての説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。